

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
YIC京都ビューティ専門学校	平成21年12月2日	杉山 征人	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4100																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	ブライダル科	平成28年文部科学省 告示第18号	-																						
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。</p> <p>具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を育てることを目的とする。</p> <p>真のビューティフルライフは、単なる外見の美しさだけではなく、知性・感性・人間性・誠実さ・自信など肉体・精神が健康であることから成り立つものと考え。本校が目指す美容分野のスペシャリストは美容師であることをベースにヘア・メイキスト、スタイリスト、メイキスト、ネイリストといった髪・顔・装いのそれぞれの分野を深く極めたスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できることを目指す。将来は、美容業界の指導的立場やリーダーとなることを期待している。</p>																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	1,920時間	870時間		1,170時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人	21人		3人	15人	18人																					
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績:優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)																						
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率: 80%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) ウエディングサロン、ホテル、美容室等 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数: 10人 ■就職希望者数: 10人 ■就職者数: 10人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他 ・進学者数: 人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダルプランナー検定2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>ドレススタイリスト検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルフラワーコーディネーター検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>JMA3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダルプランナー検定2級	③	9人	9人	ドレススタイリスト検定	③	9人	9人	ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	9人	9人	JMA3級	③	9人	9人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ブライダルプランナー検定2級	③	9人	9人																							
ドレススタイリスト検定	③	9人	9人																							
ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	9人	9人																							
JMA3級	③	9人	9人																							
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 0% 平成29年4月1日時点において、在学者22名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者21名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人々々への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名 初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業・見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/">http://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/</a>																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。

・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。

必修科目	専門科目	・卒業生が必ず修得していなければならない科目 ・基本共通科目	座学・実技
	人間力		キャリア科目
選択必修科目		卒業生が修得していなければならない科目 専攻によりより深く学ぶことができる	学生自身が 自分の将来に 向けて選択
選択必修科目		卒業生が修得することが望ましい科目	

・教育課程科目は、毎年度毎に見直し、新設、廃止、改訂、改正を行う。これらの結果は、教育課程編成委員会における企業側の科目の指導・助言に基づき必要に応じて内容の修正、変更・追加を行う。

・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。

・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、キャリア科目だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。

・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	②
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
助川 春彦	資生堂プロフェッショナル株式会社 広域統括部 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
越前 多恵子	ワタベウェディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	YIC京都ビューティ専門学校 校長		
細田 元一	YIC京都ビューティ専門学校 副校長		
田澤 初美	YIC京都ビューティ専門学校 教務課長		
山根 大助	YIC京都ビューティ専門学校 アメーバ経営推進室長		

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数 2回

(開催日時)

第1回 平成30年5月28日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月予定 13:30～15:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育活動:

・ブライダルの検定に関して、ABC検定以外の検定資格はどの様に考えているのか。  
 → BIA検定をカリキュラムに導入済

・学生自身が自発的に運営できるイベントを企画してはどうか。  
 → 9月に2年生、12月1年生の学生ショーを実施。クオリティが低い部分もあるが、全て学生が考えて実施。

・マツエクに関して、最近60～70の年代の需要も増加している。基本的な知識・技術は身につけておいても良いのではないか。  
 → 授業時間数を検討中ではあるが、OCでマツエクの体験講座をサロン様に来てもらって実施。ウィッグに作業をしたりしている。今後どのくらいの時間でどの様な形で取り入れるかは検討中。

・講習会等の集客の為にSNSを利用した集客方法を学校で教えるのはどうか。  
 → 研修まではできていないが、ネイルのサンプルチップの写真撮影の仕方等を1コマ程度教えて頂いた。実際に写真をとってSNSにアップ。他の学科はSNSの集客よりも利用方法の注意喚起を適宜実施。注意喚起を学生支援室と協力して実施

・読解力はお客様と接触するうえで非常に重要。言葉と言葉の行間をどれだけ読めるのが重要である。  
 → 入学が決まった高校生は入学前学習で基礎学力を測るものを実施。四則演算や漢字の読み方が多かったが、今年度から読解力が必要になる様な問題を出している。

学修成果:

・コンテストの出場種目の増加に関して、種目を特化するのも良いが幅を広げて学生の選択肢を増やしてみてもどうか。  
 → 前年度から取組み、徐々に結果が出てきている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国家資格である美容師資格習得に必要な教育科目は美容師養成施設指定規則で定められており、資格取得のために全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、美容分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、地域社会で美容業界を主導する20社以上のサロンをネットワークサロンとして組織し、連携することにより、美容業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。ネットワークサロン以外の美容業界のみならず、ビューティ分野の企業、理美容組合、メイク、ネイル、ブライダル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携する。

連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・企業等と協定書を締結し、連携授業としてカットⅡやカラー特論の授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント⇒評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実務研修	基本的な案内の方法や正しい敬語、ビジネスの場に求められる立ち振舞いを身につける。ブライダル科で学ぶ集大成として模擬挙式・披露宴を実施。	株式会社 ナノ
マナープロトコール	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	キャリアアップラボ株式会社

インターンシップ I	ブライダル業界研究で学んでいることを参考にインターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担である。	新・都ホテル、(株)エッチ・エヌ・オー(ホテルニューオウミ)、(株)クレジエンドプロデュース(びわこ大津館)、アイネスヴィラノツエ宝ヶ池、(株)アニバーサリークラブ日本私学振興・共済事業団(京都ガーデンパレス)、(株)プリンスホテル(びわこ大津プリンスホテル)、オリエンタル京都朱雀邸、(有)TAKE STEP、(株)ヘブン・デュオ
ブライダルコスチューム	ウエディングに関する男性・女性のドレスコードを把握する。洋装・和装の幅広い知識の習得に努める座学。暗記も多くなるが対策を実施しシーンやお客様にふさわしい提案ができるようになる。	株式会社ベトーアロマティーク

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教え育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

バンケットフェア in style wedding KYOTO(インスタイルウエディング)、ABC協会認定教員研修会(全米ブライダルコンサルタント協会)、ヘアケアマイスター研修(日本ヘアケアマイスター協会)

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

京都私立中高連合会カウンセリング研究会公開講座(京都私立中高連合会カウンセリング研究会)、京都市人権セミナー(京都市男女共同参画センター)、コミュニケーション研修会(実践行動学研究所)、実践教育・心理検査基礎講座(株図書文化社)、京都学校教育相談研修大会(京都私立中高連合会カウンセリング研究会)、未来ノート研修会(職業教育・キャリア教育財団)、教職員研修会(京都府専修学校各種学校協会)、ハラスメントを防ぐには(京都市)、QUの活用について(YIC京都)、ICTを活用した先進的授業事例研修会(全国専門学校教育研究会)

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

ABC協会講師資格取得セミナー ブライダル総研グッドウェディングアワード

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

インストラクションデザイン研修、アドラー心理学の活用による退学者防止学級経営術、アクティブラーニング型授業研修

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3)教育活動	2 教育の内容
(4)学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	3 教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	5 学生支援
(8)財務	8 財務
(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営:

・美容室の現場ではe-learningをまだまだ活用できていないが、学校ではどのような状況か。  
→ リメディアル教育、グループウェアを用いたもの、理美容センターのものを取り入れている。ベースとなるものは導入しているが本格的な研修としては不十分。

・クレームの対応は機械化が進むほど発生しやすくなるが、どの様にして人と人との対処に落とし込んでいるのか。  
→ 対応フローを作成し、経営計画書に基づいた行動基準で対応している。

教育の内部質保証システム:

・教員の確保に対してネットワークサロンが具体的に機能して確保できているのか。  
→ 常勤の枠は充足している為、非常勤講師で現場から来て頂いている。

・美容業界で専門学校を探すと資料等で知る事が出来るが、外部に対する宣伝はどの様にしているのか。  
→ 高校生に直接打ち出す方法を重視している。主に高校生への宣伝媒体を利用したPRを行っている。

・学校の実習場を美容所として利用し、ネットワークサロンと提携してみてもどうか。現場としてはアシスタントから技術者になった際にお客様に入れられない事が課題である。うまく連携できれば学校とサロンとの結びつきもより強固となる。  
→ 美容所に関しては以前から検討している。要件を満たせるのかまずは確認する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
助川 春彦	資生堂プロフェッショナル株式会社 広域統括部 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
福山 正樹	レーコ美容室株式会社	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダル科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ブ ラ イ ダ ル コスチュームⅠ	衣装の歴史、ドレスコード、シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスなどの扱い方を修得。	1 前	30	1	○			○			○	○
○			ブ ラ イ ダ ル コスチュームⅡ	コスチューム検定の対策授業。主に衣装のTPO/素材の名称などを修得。	1 後	30	1	○			○			○	○
○			ブライダル概論	現代の日本におけるブライダル事情の概要を知り、ブライダルとは何か?どんな意味・意義があるのか?そこに従事する人間としてのモラルなどを学ぶ。	1 前	30	1	○			○			○	
○			フードコーディネーター概論	フードコーディネーター教本をもとに料理サービスの基本を学習する。食の文化や科学・衛生及びテーブルコーディネートやマナー・サービスの方法へと学習内容を広げていく。更に販売促進に一環として経営やメニュープランニングについても考査していく。	2 前	30	1	○			○			○	
○			ブライダル企業研究	婚礼会場はどの様などころがあるのか。そこではどのような仕事があるのか。関連業種は?などについて調べる。9月のインターシップリテラシーも取り組んでいる。ブライダル業界をブレ・当日・新生活部分に分けてさまざまな角度から検討を検討を深める。	1 前	30	1	○			○			○	
○			BIA検定Ⅰ	BIA検定対策授業。ブライダルの定義(第1章)から、ブライダル業界(第2章)についてを学ぶ。	1 前	30	1	○			○			○	
○			BIA検定Ⅱ	BIA検定対策授業。ブライダルの定義(第3章)から、ブライダル業界(第4章、第5章)についてを学ぶ。	1 後	30	1	○			○			○	
○			BIA検定Ⅲ	BIA検定対策授業。テキスト第5章から第6章についてを学ぶ。	2 前	30	1	○			○			○	
○			BIA検定Ⅳ	BIA検定対策授業。テキスト第1～第7章までの振り返りと毎回の模擬試験。	2 後	30	1	○			○			○	
○			ABC検定Ⅰ	ABCブライダルプランナーテキストを使用しブライダル業界の基本的な仕事に必要な知識の習得。日本および海外のブライダルの基礎を網羅した学習内容。日本においては関連業種、海外においては宗教観の違いなども含め知識を深める。	1 後	30	1	○			○			○	





○		ビジネススキルアップⅠ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事はどのような内容かといったことを中心に、速やかに適応するための基礎的な知識やスキルを学ぶ。	1前	30	1	○		○		○		
○		ビジネススキルアップⅡ	マナーは形式を学ぶことではなく、「思いやり」の気持を表現する方法論のひとつです。その本質を理解した上で、よりよい表現方法を実践を通して学び、大人の女性としての基盤を作ります。	2前	30	1	○		○		○		
○		ビジネススキルアップⅢ	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身につけ、お客様への手紙、商談でのメモなど、字で信頼をさせていただけるよう取り組む。	1前	30	1	○		○		○		
○		ビジネススキルアップⅣ	ブライダル業界で必要な美しい手書き文字を身につけ、お客様への手紙、商談でのメモなど、字で信頼をさせていただけるよう取り組む。	2前	30	1	○		○		○		
○		サービス接遇Ⅰ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める	1前	30	1	○		○		○		
○		サービス接遇Ⅱ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める	1前	30	1	○		○		○		
○		プレゼンテーション・ディベート学	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	1後	30	1	○		○		○		
○		マナープロトコール	国際的な基本マナーであるプロトコールなど、マナーに関する知識の幅を広げる。また、国際化社会においても普遍的に要求される、論理的に表現する力を養成する。各回演習を行う。	2後	30	1	○		○		○		○
○		セールスプロモーション	結婚式のセールス分野に特化し、新規接客スキルを身につける。	2	30	1	○		○		○		
○		基本IT技術Ⅰ	企業においてパソコンでの事務処理は必須である。授業内ではワードにてチラシ(案内)が作成できる。2年で習うコンピュータ映像の授業にスムーズに入ってブライダル業界でのセンスある映像加工ができるように学習する。	1前	30	1		○	○			○	
○		基本IT技術Ⅱ	企業においてパソコンでの事務処理は必須である。授業内ではエクセルを使用するの基本的な実務書類(顧客データ管理、表作成、請求書作成)が作成できる。	1後	30	1		○	○			○	
○		トータルビューティ基礎学Ⅰ	ブライダルにおける美容の基礎知識を身につける	1後	30	1	○		○			○	
○		色彩学	色は生活の様々な分野にかかわっている。色彩に関する基本的なことを学習し人の心理面にどのような働きかけをすればいいのかを知り効果的に使用していく。色の分類・効果・演出と体系的に学習していく。	1後	30	1	○		○			○	

○		ブライズメイクヘア	即戦力として活用できる着付とブライタル業界実務	2後	30	1				○	○				○
○		着付け・作法	浴衣の着付けから始め留袖の着付けで練習をしていく。帯結び(お太鼓・飾り結び)が数種できるように実践的な授業。和装の名称を覚える	1後	60	2				○	○				○
○		メイクアップ基礎	<座学>皮膚科学、顔の成り立ち～顔分析、ゴールデンプロポーションについて、色彩学、道具の名称～使いこなすなど <実技>クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの楽しさを知る	1前	60	2				○	○				○
○		ネイル基礎	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート検定3級対策	2後	90	3				○	○				○
○		ヘアアレンジⅠ	ウィッグ使用の実技中心となる。	1前	30	1				○	○				○
	○	ビジネス基礎学	国語、数学、社会をトータルで学ぶ。	1前	30	1	○				○				○
	○	ビジネス電話対応	ビジネス電話基礎6級の試験対策、ビジネス電話の常識を理解し、社会に出て恥ずかしくない電話対応を学ぶ。	2前	30	1	○				○				○
	○	ブライダルサロン	サロンの運営方法とお客様への接遇をトータルで学ぶ。	1前	60	2	○				○				○
	○	サロン運営	ブライダルサロンの運営を実際に行い、広告を学ぶ。	1	60	2	○				○				○
	○	キャリアデザイン	各自の就職活動が円滑に進むよう担当教員がアドバイスなどを適時行う。エントリーをした企業への履歴書の記入や自己アピールなど具体的に指導する。自分の目標を見失うことなく就職先企業を決めていく作業を行う。個人ワーク、グループワーク形式。小テストにて理解度確認。	2前	30	1	○				○				○
	○	フィッシング	美しい所作を身につけると同時にお客様へのおもてなしを体験できる人間になる。	2	30	1				○	○				○
	○	メイクセラピー	花嫁様の披露宴での心理的なストレスを和らげるメイクセラピーの技術を身につける。	1後	60	2				○	○				○
	○	ブライズエステ	花嫁を最高に輝かせる為に今やブライダルエステをする人も多い。ドレス選びの際に肩やデコルテをマッサージするだけで瞬時に引き立つこともある。ブライダル業界人としてエステの効果を説明できること、簡単なマッサージができることは武器になる。授業は理論と実技を並行して行う。実技はハンド・デコルテを相モデルで、フェイスはセルフで実施する。上達度を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識やテクニックを確実なものとするようにする。	1	60	2				○	○				○

	○	ブライダル アロマ	ブライダルに重要な場の空気・雰囲気香から印象付ける。	2	30	1			○	○								○
	○	ブライダル 映像基礎	ブライダルの映像について学び、お客様に説明できるレベルになる。	2	30	1	○		△	○								○
	○	イラスト・ デッサン	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図などデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へと発展させる。イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。	2 後	30	1	△		○	○								○
	○	ブライダル 広告研究	ブライダルの広告は多岐に渡っている。ゼクシィのみならず、SNS広告、HP、ウエディングマルシェなど。その広告の効果や利用方法を知り、それらを有効に使えるプランナーになる。	1	30	1	○		△	○								○
	○	フラワー コーディネートⅡ	多様化するニーズ。結婚式や披露宴をカラーやフラワーなどをコーディネートするセンスが問われます。1年時に学習したフラワーアレンジの技術をベースにあらゆるシーンや個性に合わせ提案できる最新のテクニックを学ぶ実践的授業。ほぼ毎回実習を行うため、各自和ばさみ・ハンドタオル・持ち帰り用袋など持参の事。	2 前	30	1			○	○								○
	○	実務 研修	基本的な案内の方法や正しい敬語、ビジネスの場に求められる立ち振舞いを身につける。ブライダル科で学ぶ集大成として模擬挙式・披露宴を実施。	2	60	2			○	○								○ ○
	○	ウェディング プランナー 演習	グッドアワードウェディングの視察準備、視察の実際	2	30	1			○	○								○
合計				51科目				2,040時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必須科目48単位（1,440時間）および 選択必須科目16単位（480時間）以上、計64単位（1,920時間）以上の履及び学費の完納 履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。